

## 日本語教育人材の養成・研修に関する概要

### 【Ⅰ】活動分野 **国内**・海外

日本語教育の対象者：**就労を目指す定住外国人**、大学院生、ビジネスマン等

### 【Ⅱ】日本語教育人材の役割 **日本語指導者**・日本語指導補助者・コーディネーター

### 【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称： <b>一般財団法人日本国際協力センター</b>
	主な日本語教育事業 ○厚生労働省『外国人就労・定着支援研修』等官公庁、地方自治体、大学、企業からの受託
2. 養成・研修概要	※以下、業務実施にあたる上での研修という位置づけ
	1) 研修・講座の名称： <b>講師研修会、コース事前セミナー</b>
	2) 研修の目的及び育成しようとしている人物像：担当コースの目的に沿って学習者の到達目標が達成できるよう指導できる。
	3) 研修対象・受講資格：当センター登録講師で当該案件を担当する者
	4) 受講方法：(通信・通学など)集合研修
	5) 研修実施時期及び期間：各コース開始時
	6) 研修実施時間数：コース開始時に 1～5 時間
	7) 受講料：業務の一環という位置づけのため無料
	8) 教育実習・実践演習等の有無：無
	9) 修了要件：無
	10) 評価及び認定の方法：無
11) 受講修了者の進路(活動分野)：担当コースに関わる業務の遂行	
3. 養成・研修の 科目一覧	科目(指導項目)一覧を記載してください。その際、次ページの平成12年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する(もしくは内容的に近い)か、番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例)【理論編】ファシリテーション(★) 【実践編】フィールドワーク実習(⑩)
	『外国人就労定着支援研修』における講師研修の内容(※科目ではない) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業趣旨とその背景 ②③</li> <li>2. 受講者属性への理解 ②③⑥⑧⑨⑪⑯</li> <li>3. 日本での一般的な就職活動におけるスキームの基本知識 ★</li> <li>4. 課題達成型授業の実践 ⑧⑩</li> <li>5. 日本におけるビジネスマナーの理解⑯</li> </ol>

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。(例, 文明, 哲学) 追加科目を【 】に記載してください。			
	領域	区分	区分(①～⑫) 内容	
社会・文化・地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史, 文化, 文明, 社会, 教育, 哲学, 国際関係, 日本事情, 日本文学【 】	
		②異文化接触	国際協力, 文化交流, 留学生政策, 移民・難民政策, 研修生受入政策, 外国人児童生徒, 帰国児童生徒, 地域協力, 精神衛生【定住外国人の人材活用施策】	
		③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史, 言語政策, 教員養成, 学習者の多様化, 教育哲学, 学習者の推移, 日本語試験, 各国語試験, 世界各地域の日本語教育事情, 日本各地域の日本語教育事情【 】	
	言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化, 社会言語学, 社会文化能力, 言語接触, 言語管理, 言語政策, 言語社会学, 教育哲学, 教育社会学, 教育制度【 】	
		⑤言語使用と社会	言語変種, ジェンダー差・世代差, 地域言語, 待遇・ポライトネス, 言語・非言語行動, コミュニケーション・ストラテジー, 地域生活関連情報【 】	
		⑥異文化コミュニケーションと社会	異文化需要・適応, 言語・文化相対主義, 自文化(自民族)中心主義, アイデンティティ, 多文化主義, 異文化間トランス, 言語イデオロギー, 言語政策【 】	
	言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解, 談話理解, 予測・推測能力, 記憶, 視点, 言語学習【 】	
		⑧言語習得・発達	幼児言語, 習得過程(第一言語・第二言語), 中間言語, 言語喪失, バイリンガリズム, 学習過程, 学習者タイプ, 学習ストラテジー【 】	
		⑨異文化理解と心理	異文化間心理学, 社会的スキル, 集団主義, 教育心理, 日本語の学習・教育の情意的側面【 】	
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識, 実践的能力, 自己点検能力, カリキュラム, コースデザイン, 教室活動, 教授法, 評価法, 学習者情報, 教育実習, 教育環境, 地域別・年代別日本語教育法, 教育情報, ニーズ分析, 誤用分析, 教材分析・開発【 】
			⑪異文化間教育・コミュニケーション教育	異文化間教育, 多文化教育, 国際・比較教育, 国際理解教育, コミュニケーション教育, スピーチ・コミュニケーション, 異文化コミュニケーション訓練, 開発コミュニケーション, 異文化マネジメント, 異文化心理, 教育心理, 言語間対照, 学習者の権利【 】
			⑫言語教育と情報	教材開発, 教材選択, 教育工学, システム工学, 統計処理, メディアリテラシー, 情報リテラシー, マルチメディア【 】

	言語 に 関 わ る 領 域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学, 世界の諸言語, 言語の類型, 音声的類型, 形態(語彙)的類型, 統計的類型, 意味論的類型, 語用論的類型, 音声と文法 【 】
			⑭日本語の構造	日本語の系統, 日本語の構造, 音韻体系, 形態・語彙体系, 文法体系, 意味体系, 語用論的規範, 表記, 日本語史 【 】
			⑮言語研究	理論言語学, 応用言語学, 情報学, 社会言語学, 心理言語学, 認知言語学, 言語地理学, 対象言語学, 計量言語学, 歴史言語学, コミュニケーション学 【 】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力, 表出能力, 言語運用能力, 談話構成能力, 議論能力, 社会文化能力, 対人関係能力, 異文化調整能力 【 】
※3領域5区分以外については, こちらに記載してください。	その他	【 】	【 】	
5. 特徴的な内容	貴団体に養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して, 特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら, 記載をお願いします。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当講師数が最も多いのが厚生労働省より受託している『外国人就労・定着支援研修』で, 定住外国人を対象に就労のための日本語やマナーを身につけるといった特化した内容</li> </ul>			

<p>6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力</p> <p>※御参考:平成12年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添</p>	<p>1) 資質 2) 知識 3) 能力 について平成12年報告に示された, 下記内容について該当する場合は, □に☑を付けてください。また, 活動分野及び役割別の 1) 資質 2) 知識 3) 能力 については, □以下に記載をお願いします。</p> <p><b>1) 資質</b></p> <p><input type="checkbox"/>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>鋭い言語感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな国際的感覚を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動を行う教育者として, 豊かな人間性を備えている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の専門性を有している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語教育の専門家として, 自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p> <p>・</p> <p>・</p> <p><b>2) 知識</b></p> <p><input type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語使用に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>言語発達に関する知識</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語の習得過程に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>日本の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>日本の歴史・文化事情に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国の教育制度に関する知識</p> <p><input type="checkbox"/>諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p> <p>・</p> <p>・</p> <p><b>3) 能力</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識, 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識, 言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等を分析する能力</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育課程の編成, 授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p> <p>・</p> <p>・</p>
--	---

<p>7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準</p>	<p>【資格要件】</p> <p>①8年以上の日本語教育経験かつクラス担任経験</p> <p>②日本語教育能力検定試験合格</p> <p>③420時間日本語講師養成講座修了または日本語教育主専攻・副専攻修了</p> <p>【選定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題達成型授業について担当講師に助言・指導できること</li> <li>・様々なビリーフを持つ講師に対して粘り強く対応できること</li> </ul>
<p>8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果</p>	<p>①日系南米地域出身者など地域のマジョリティである学習者に対するバックグラウンド、学習者特性への理解が進んでいる。</p> <p>②限られた時間内で日本語習得を図るために課題達成型授業を基本としているが、日本語学校等で文型積み上げ式に慣れている講師も徐々に対応できるようになっていること。</p>
<p>9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題(改善を検討したい点)と展望</p>	<p>下記2点は早急に対応しなければいけない課題でありながら、そのための研修プログラムの開発がまだ十分ではない。</p> <p>①就労支援の日本語という分野に特化した日本語プログラムであるため、日本語そのものの以外の就労支援に関わる知識やポイントなどをどう身に付け、それを日本語指導上どう関連させていくか</p> <p>②就労は個々の人生や生活に大きく関係するセンシティブなものであり、それを踏まえて多様な学習者への対応をいかにしていくか、事例共有を十分に行い、ケーススタディで理解していく形を検討している。</p>
<p>10. その他</p> <p>(人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら、記載してください。)</p>	